

英国のカントリーサイドからみた 千葉の里山

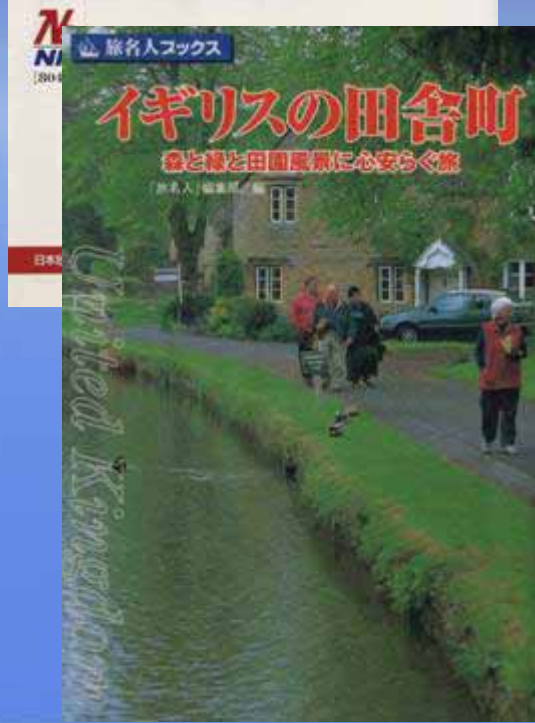
東京情報大学 総合情報学部 環境情報学科
原慶太郎 hara@rsch.tuis.ac.jp



英国のカントリーサイド

- Countryside
- 田舎、地方、**田園**
(町や都市からはなれたところ)
- 日本での英国ブーム
 - 林望「イギリスはおいしい」(1991)
 - イングリッシュガーデン
 - カントリーサイド

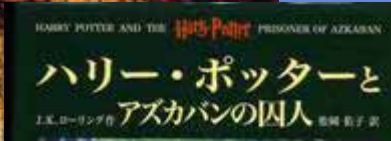
英国のカントリーサイド



カンントリーサイドが生んだ童話



ハリー・ポッター



なぜ英国？

- ものごとを外からながめる見方
- 相対化, 対象化
- ちばの里山を外からながめてみる

今回は英国から千葉をながめる

英国と日本



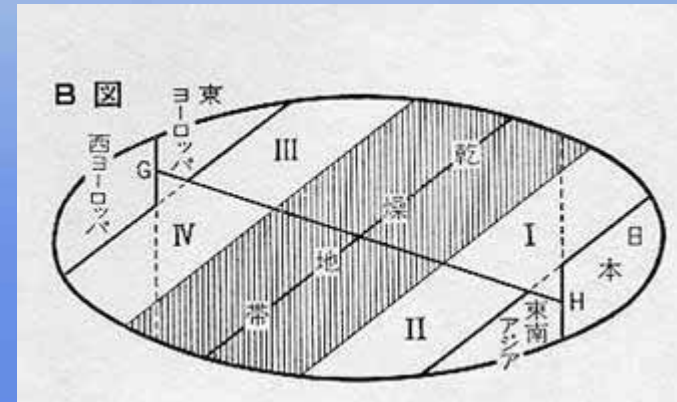
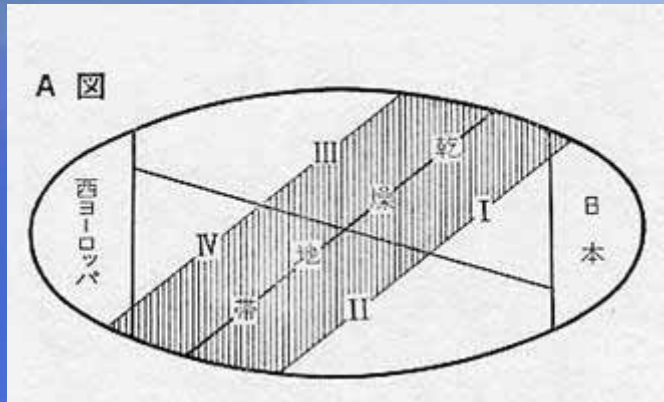
- 英国
面積: 24.3万km²
人口: 5900万人
人口密度: 245人/km²
- 日本
面積: 37.8万km²
人口: 12700万人
人口密度: 337人/km²
(2001年)

英国と日本 草地の国と森林の国

	総面積 (万km ²)	耕地率 (%)	牧場・ 牧草地 (%)	森林率 (%)	耕地面積 (ha) / 人
英国	24.3	24.4	45.3	10.2	11.04
日本	37.8	12.8	1.7	66.2	1.74

英国と日本

- 文明の生態史観 (梅棹忠夫, 1974)
 - 東と西 (日本と西ヨーロッパの共通性)
 - 第一地域: 第二地域からの文明導入 封建制 資本主義
 - 第二地域: 古代文明の発生 専政帝国 植民地 近代化



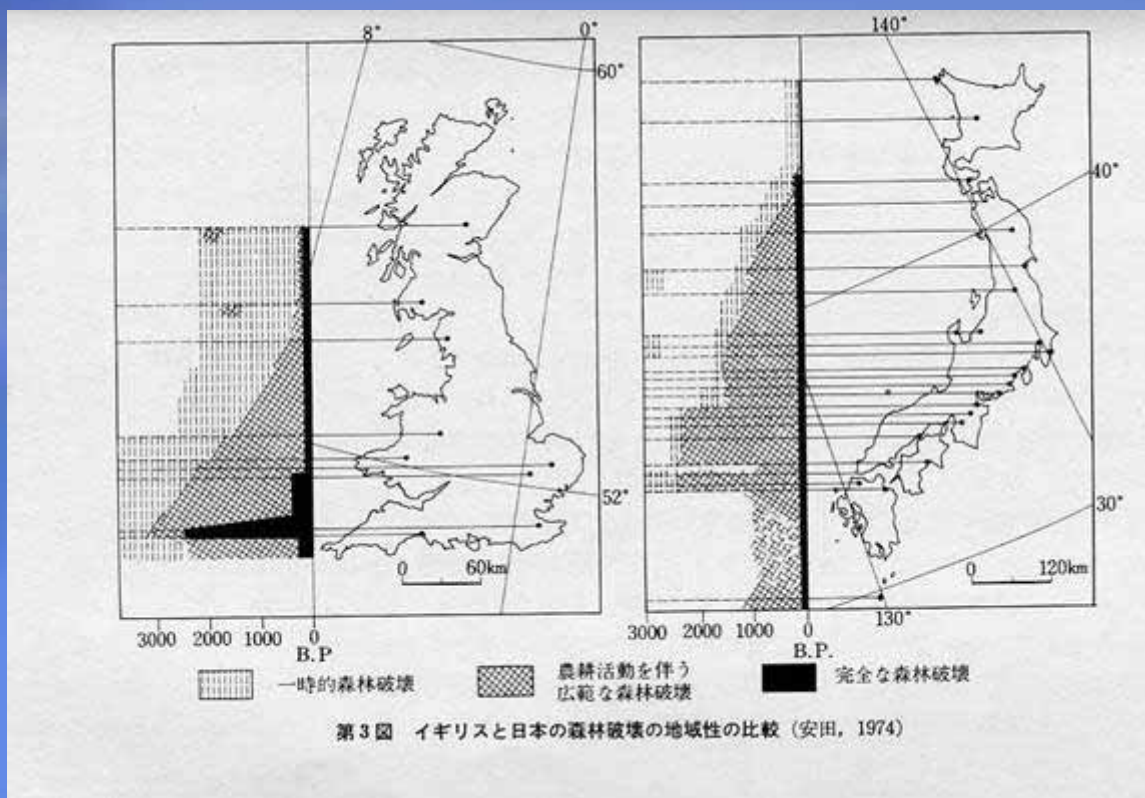
英国と日本

- 森林の思考・砂漠の思考(鈴木秀夫, 1977)

日本: 水田耕作の原点から北にいくほど森林破壊開始が遅れる

英国: 一時的な森林破壊から広範な森林破壊までの間が長い

農耕地が平野に限定されることなく丘陵の森林地帯に散開して広がる



きょうの話

- 里山はなぜ保全しなければならないか
- 里山をどう保全したらよいのか

- 物事を外から考えてみる
- 英国の里山保全を参考にする
（例） チョーク草地の保全
- 景観の保全という枠組み
- 伝統的農業を守るという枠組み

- ちば独自のやり方を考える
- … と 子ども

チョークエスカーPMENTと谷津田

- チョーク・エスカーPMENT
(英国)



- 谷津田(日本)



チョーク

- 中生代

- 白亜紀 (Cretaceous Period)

- 1億3500万年前から6500万年前

- ジュラ紀 (Jurassic Period)

- 2億0300万年前から1億3500万年前

- 三畳紀 (Triassic Period)

- 2億2500万年前から2億0300万年前

チョーク： ココリス (coccolith)

- コッコリソフォア
(Coccolithophore)
- 石灰質ナノプランクトンの作る石灰質殻

白亜紀末期
(7千万年前)の種
Zeugrhabdotus sp.



Wye, Kent, UK



Landsat/ETM+ (19/06/2000)



チョーク草地

- 伝統的な牧畜業によって維持
- 高い種多様性
- 英国植物生態学の主要フィールド
- チョーク草地の現状
 - 1960年代
 - 農業を取り巻く環境の変化
 - 1. 耕作地に変換
 - 2. 採草地に変化

チョーク草地の野生動植物の危機

- グレイジングによって維持されてきた短草型草地
- そこに適応した植物
 - ホースシューベッチ
- それを食草とする昆虫類
 - チョークヒルブルー
- ハビタットの減少
絶滅の危機



Horseshoe Vetch



Chalkhill Blue

チョーク・エスカープメント景観

- 残存するチョーク草地
 - 丘陵地裾の急傾斜地(エスカープメント)
- 景観の生態学的保全
- e.g. ワイ丘陵地国立自然保護区
 - 自然保護庁(English Nature)による積極的な維持管理
 - 牧畜農家と契約 伝統的な放牧をすすめる

参考となる事例

- 伝統的牧畜業の持続
- 景観の保全
 - 文化的景観 (Cultural landscape) の保全
- 基礎的な生物相調査の充実
データベース化
- 行政 - 市民 (NPO) - 研究者の連携

スライド上映 (Wye 1996-97)

ス

英国の農業と環境



歴史的変遷

- 1837年(ビクトリア女王即位)
 - 国民は農業に依存
 - カントリーサイド:人口の3分の2
- 1851年
 - 都市:人口の半分
- 1901年
 - 都市:4分の3以上
 - カントリーサイドの衰退

ビクトリア時代(1837 - 1902)

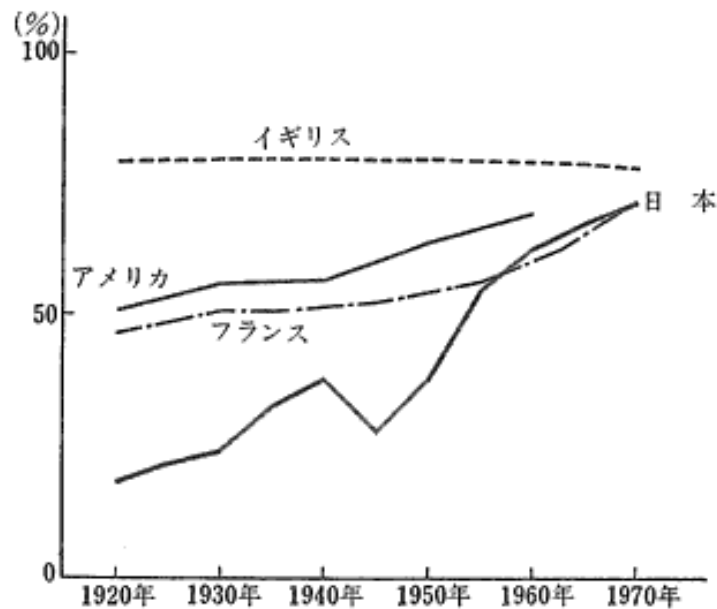
- イギリスが世界制覇に邁進
- 工業の発達、農村から都市へ人口の集中
- カントリーサイド
 - 大地主の所領地 (estate) の中の農場を農園経営者 (farmer) が借り受け、多くの農夫を雇用。
 - 農夫を住まわせるために民家 (cottage) が用意され、それらが集まって村 (village) を構成。
 - 民家住まいの農夫 (cottager) は農園と雇用契約が切れれば、民家 (借家) はもとより、村から去る。

そのころの日本

- 江戸時代末期から明治30年代
- 近代社会へ移行する激変期
- 農村
 - 元来、日本では田畑と住宅は「イエ」単位の自立小農(=農家)に所有され、これが集まって「ムラ」を構成し、子々孫々までそこに住み続けることを理想とした。

都市人口の推移

第2-4-4図 主要国の都市人口比率の推移



- (備考)
1. 国連「世界人口年鑑」による。
 2. 一部推計である。
 3. 都市の定義は各国必ずしも一致しない。
 4. イギリスはイングランド及びウェールズ。

歴史的変遷

- 1946年 全国土地基金
 - 内国歳入庁が遺産相続税として土地や歴史的建造物を取得 ナショナル・トラスト
- 1947年 都市農村計画法
 - 州当局に開発規制の権限 グリーンベルト
- 1948年 自然管理委員会
- 1949年 国立公園・田園地域アクセス権法
 - 国立公園と特別優良自然景観地域(AONB)

歴史的変遷(2)

- 1967年 田園地域法 (Countryside Act)
 - 田園地域(里山)の自然美と保護と増進を図り、公衆のアクセスを奨励 田園地域委員会 (CC)
 - 自然保護協議会 (NCC)
 - 国立自然保護区 (NNR)
 - 特別科学研究対象地域 (SSSI)
- 1960年代 自然保護運動
 - ナショナルトラストや王立鳥類保護協会 (RSPB)
 - 農業・野生生物技術者指導グループ (FWAG)

歴史的変遷(3)

- 1981年 野生生物・田園地域法
 - 特別科学研究対象地域(SSSI)の保護強化
 - 全国3800箇所(国土面積の3.5%)
- 1986年 農業法改正
 - 環境保全地域事業
 - セット・アサイド・プレミアム事業
 - 田園地域スチュワードシップ事業(NCC, CC)

環境保全地域事業

1. 当該地域が国民的にみて環境に重要であること
2. 当該地域の環境保全が特定の農業活動の採用, 継続, 拡張に依存していること
3. 伝統的農業活動を奨励することが環境破壊を阻止するのに役立つ地域であること
4. 具体的かつ一貫した環境保全の対象となる地域的単位となっていること

歴史的変遷(4)

- 1989年 条件不利地域農業対策事業
 - 劣等地域の牧畜業に対する補償
 - NCCによる批判 過放牧
- 1990年 硝酸塩監視事業
 - cf. 印旛沼流域

英国農業政策の目指すもの

- 効率的農業
 - 競争的農業, 差別化批判, デカップリング
- 農業環境の保全
 - 農業者に環境保全的農業活動を実施する包括的事業参加を促すインセンティブを提供
- 農業と環境の統合
 - クロス・コンプライアンス(遵守)
直接支給を前提にしてその支給に環境要件を付加

欧州共同体 (EU) としての農業政策

- CAP (共通農業政策)
 - 1957年 ローマ条約 (欧州経済共同体)
 - 「欧州農業共同体」の構想
 - 単一市場, 共同体特惠, 財政の連帯責任
- 英国の農業政策: CAPとの整合性
- 1992年改革
 - 価格引き下げ, 所得補償のための直接支払, 生産調整のためのセット・アサイド (減反)
- ガット交渉 (ウルグアイラウンド) の外圧

英国人の里山好き

- カントリーサイド
 - 田園地域 田園景観
- ピーターラビットなどの童話の舞台
- Ashford と Wye
- カントリーサイド・ウォーキング
 - **パブリック・フットパス** (遊歩道) : The right of way
 - パブ や イン に寄りながら歩く, 歩く, 歩く
- 一度失われた自然に対する憧憬

環境文化ということ



アジアの環境と文化

- アジアの風土にあった自然とのつきあい方
 - 日本： モンスーン気候
 - 石の文化と木の文化
- 環境文化の創造

日本型生活様式

- 江戸時代： 世界に誇るリサイクル社会
- 米国型生活様式の限界 (×)
- 欧州型生活様式 (見習うべきは欧州)
- アジア型生活様式 (?)
- 新しい時代の生活様式

近代以前

- 英国駐日公使 ラザフォード・オールコック

このよく耕された谷間の土地で、人びとが幸せに満ちた良い暮らしをしているのを見ると、これが圧政に苦しみ、過酷な税金をとりたてられて苦しんでいる場所とはとても信じられない。

ヨーロッパにはこんな幸福で暮らし向きの良い農民はいないし、また、これほど穏やかで稔り多い土地もないと思う。

自分の農地を整然と保つことにかけては、世界中で日本の農民にかなうものはない。

「大君の都」(1863)

日本人が失ったもの

- 「近代」がもたらした光と影
 - 明治以降、農業に関しては戦後の近代化
- 「コクド」が投げかけた問題 「土地」
 - 昭和30年代～
 - 土地の私有化ということ
- 「個」と「公」ということ
 - 「個」を大事にすれば他人の「個」も大事にする
「公」が育つ

英国は19世紀までに繁栄を極めた。富、成功、地位、名声といったものを手にいれた。そして人間を本当に幸せにしてくれるのは、そういうものじゃない、ということを知っちゃったんですね。米国人を「まだ若い」という目で見てる。自分たちのビクトリア時代くらいだと思っているんじゃないですか。

藤原正彦

ちばの里山を考える

- 谷津田景観がどうなるか 千葉の里山の試金石
- 耕作不適地：野生生物の残された生息地
cf. 英国の農業・環境政策
- 里山に行って 感じる, 考える, 行動する
- 里山をとおして自分をみつめる
- パートナーシップ(確立した「個」相互の関係)
 - 農林業従事者、住民、NPO、行政、研究者
- 里山「文化」 **こだわり**

ちばの里山保全

- 農林業従事者
- 住民、仲間たち(NPO)
- 研究者
- 行政
 - 弾力的かつダイナミックに

- パートナーシップ(協働)
 - 互いに「個」をもった主体の関わり合い
 - それぞれの力量が問われる

… と 子ども



里山に託す私たちの未来



- かつて子どもだったことを忘れずにいる大人はいくらもない

サン・テグジュペリ

伝えることの大切さ

無職 山本 豊子
 (東京都新宿区 74歳)

小学校にあがる前の子もたち二、三十人を相手に月に平均して3回くらい、習字を教えている。字を上手に書くことより、習字を通してあいさつや行儀、集中力を身につけさせながら話を広げ、飽きさせないようになっている。

4月下旬、「田」という字の練習に入る前に、田んぼの話をしたいと思い「田んぼの田」と説明したら、

一人の子どもが「田んぼってなあに」と言う。

私は驚き「田んぼを知らない人は手を挙げて」と聞くと、ほとんどの子どもが手を挙げた。毎日食べるご飯がお米であることは知っているけど、ここで出来るかは全く知らなかった。稲はもちろんだんぼを見たことのない子どもがたくさんいた。

若いお父さん、お母さん、海外旅行やデイズニールランドもよいが、たまには汗を流し作物を作っている人たちの姿や、山や川が人の生活に大切なことも実際に見せて学ばせて欲しい。

今の子もたちが、こぼしたご飯を、ごみのようにティッシュに包んで捨てるという話を聞くにつけ、頭でっかちな子どもが育つ遠因が、こんなところにもあるのではないかと思ってしまう。

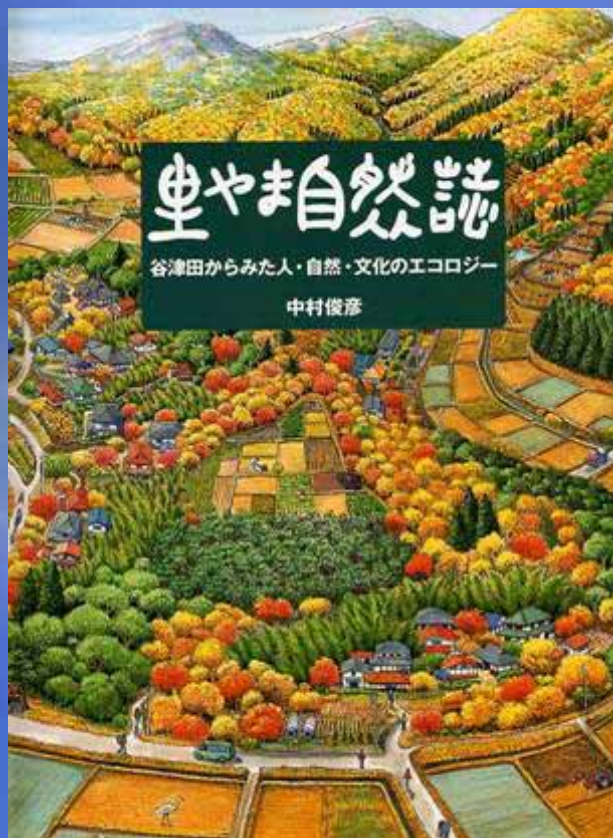
朝日新聞
 2005年5月14日

この川の水で、みんなが生活しています。

この川の水は印旛沼に流れていきます。
印旛沼の水は、たくさんの人たちの
飲み水として使われています。
また、川で生きる鳥、魚、トンボ
などの生物たちにとって大切な水



ふる里



日本人にとっての原体験の場

うさぎ
兎追いし かの山
こがな
小鮒つりし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき 故郷ふるさと

故郷（高野辰之詩、岡野貞一作曲）

この歌を聴いて胸が詰まるようなせつなさをおぼえるのは、私だけではないと思います。まだ小学校にあがる前だったと記憶していますが、夕方5時になると、近くの鉄塔からこの曲がながれ、毎日遊んでいた遠賀川の土手から母の待つ家にもどったものです。福岡県中間市に生まれ、遠賀川の近くで小学校1年生まで過ごした私にとって、この曲の情景は、まさにふるさとでの原体験そのものであり、今の私の自然観・生命観の源であった気がします。

ちばの里山保全(まとめ)

- 代々千葉に住んでいる人びと
- 新しく千葉に転入してきた人びと

➡ 誇りをもって「ふる里」といえる

原体験を共有

「ふる里やまプロジェクト」

美しき村

村は住む人のほんの僅かな気持ちから、美しくもまづくもなるものだ

「豆の葉と太陽 美しき村」
(柳田國男, 昭和15年11月)